

- ◆農水相は辞任を
- ◆「働き方改革」は過労死増やす
- ◆沖縄 機動隊が差別発言
- ◆毎月19日行動
- ◆「働き方」アンケート
- ◆加盟組合紹介

関西電力、電通で過労自殺

「働き方改革」は、過労死を増やす

◆この間、関西電力の男性課長、電通の女性新入社員の過労自殺が認定されました。男性課長の2月の推定残業時間は約200時間。女性社員のうつ病発症前1カ月の残業時間は130時間超。過労死危険ライン(80~100時間)を超えています。

◆安倍政権は「働き方改革」を掲げます。しかし、残業時間の上限規制がないばかりか、「残業代ゼロ法案」で規制を緩和しようとしています。

約束はどこへ? 「除外または再協議」



上図:「そうだったのか! TPP」HPより

◆山本農林水産相が10月18日、佐藤衆議院議院運営委員長のパーティーで、「私は、(TPP承認案を)強行採決するかどうかは、佐藤さんが決めると思っています」と発言しました。自民党の福井衆議院議員が「強行採決という形で実現する」と発言し、TPP特別委員会の理事を辞任する事件が起きたばかりです。

◆翌10月19日には、その発言の「おわび」表明のために委員長と与党は委員会開催を強行し、地方公聴会の議決まで強行しました。

◆法案の担当大臣が強行採決に言及したうえに、委員会開催を強行し、地方公聴会の議決まで強行する前代未聞の暴挙です。農水相は辞任し、十分な審議をすべきです。

沖縄 オスプレイヘリパッド建設 反対の市民に機動隊員が差別発言



建設反対の住民を強制排除しようとする機動隊(琉球新報HPより)

◆10/18、報道されているように、大阪府警の機動隊員が、オスプレイヘリパッド建設に反対する市民に「土人」「シナ人」など差別発言を行いました。大阪・松井知事は、その発言を擁護し正当化しています。

◆発言は偶然ではなく、沖縄の民意を無視する政権の姿勢が反映しているのではないのでしょうか。

TPPP審議 暴挙連発

農水相がTPPP強行発言 担当大臣の資格なし



毎月19日行動に参加しましょう

戦争させない! 11・19集会

■11月19日(土) 13:30~集会

※集会終了後、デモ

■上千歳広場(トイゴP隣)

「働き方」アンケートに実態・願いギッシリ

No.3 10/21 現在、719 人分集約

■問5 あなたが(あなたや仲間の「働き方」で、「もしかしたらブラック?」と)感じていることなど。

・部活で土日もない生活と家庭との両立に悩み部活を変えてもらったが、その分の負担は別の人に行っているわけで、三途の渡し守だなどと思います
・実際、仕事と子育ての両立ができていません。子どもの行事に行くために休みたいけど休めないこと
多々あります。ノルマが有る仕事ではないので、仕方ない…で今まで済ませてきましたが…最近疑問が強くなっています
・夜遅くまで仕事(早く帰りたいけど仕事がたくさんあって終わらない)。朝早くから部活。ゆっくり休んでいる暇がありません。これではストレスがたまる一方です

■問6 「働き方改革」で、政府に一番望むこと。

・非正規の人々のセーフティーネット整備。同一労働同一賃金
・とにかくもっと職員を増やして、仕事を分担できる体制にしてほしい
・定員改善による人員増
・賃金の上昇。このままでは優秀な人材の確保が難しくなると思います

■8時間きっちり仕事が終わったら、何に時間を使いたいですか?

・家事、健康増進
・自分の世界を広げる
・自分のやりたいことを思い切りやりたい(趣味)
・とりあえず休養でしょうか
・デート、趣味、飲みに行くなど
・ゆっくり休みます
・家族と過ごす時間、自分の識見を深める時間。やりたいことを全てする時間にしたい
・家族との時間。家庭菜園
・習い事をしたいです

加盟組合紹介

長野県高等学校教職員組合長水支部

★18歳選挙権、主権者教育のとりくみから、そして…

高教組では昨年、戦争法案反対のたたかいに組織をあげて取り組んできました。その中で良心的な人たちが組合・分会に結集し、高校職場で戦争法阻止、平和憲法を守る取り組みを展開してきたことは何にも代えがたいことでした。今年度は選挙権年齢の「18歳以上」への引き下げ、7月の参議院選挙、そしてそれを取り巻く主権者教育のあり方が大きな課題の一つとなりました。

私たちがこれまで積み上げてきた平和主義や民主主義・立憲主義の礎に立ち、職場のなかでは組合員はもちろん組合員でない方も含めて、「次世代を担っていく子どもたちがこれからをどう捉え、どう向かい合っていくか、自らの行動につなげていくか」の取り組みが各校で展開されました。北部高校の取り組みは信毎紙上で紹介されています(7/8付)。参院選後の生徒に感想を求めたところ、「初めての1票、投票自体はそれほど難しくはなかったが、どう決めたらいいのか迷った。自分の1票で何がかわからないけど、有権者としてやはり投票しないのはもったいない」など不安と戸惑いを抱えながらも、真摯に向かい合い、自らの考えに基づいて投票をしている姿がうかがえました。

さて、この過程の中で大きくクロズアップされたのが「政治的中立性」の問題でした。主権者教育を進める中でも現場では政治的中立性の確保に配慮しながら指導に悩む実態がありました。しかし、自民党はネット上のサイト内で「政治的中立性を逸脱するような不適切な事例」を募る「密告フォーム」を展開しました。これは現場で生きた教材をもとに自由に語り、考える私たちのあり方が締め付け、さらには主権教育のみならず、子どもたちの自治活動や自主的な活動、民主主義を学び築いていく活動を阻害していくことにつながると思われまます。教育現場はもとより、広く世論一般でも受け入れられるものでなく、当然のこととして多くの批判が集中しました。

「子どもたちの明るい笑顔、輝く未来」のため、不当な支配に服することなく、様々な場で自分の考えを自分の言葉で自由に語り、お互いの立場を理解し尊重する民主的教育を私たちは追い求めています。学習会や意見交換、様々な交流機会などを捉えて展開していきたいと思っております。私たちの周囲、職場では教育条件改善、組織の拡大強化、労働条件改善、講師再任用のあり方などはじめ対応を迫られている課題は山積しています。しかし、臆することなく全ての職場で地道に、そして粘り強く活動を展開していくことが何よりも大切だと信じています。

長野県高等学校教職員組合長水支部

支部長 小山修一